

令和7年度 第2回湯沢市部活動協議会 記録(運動部)

(事務局)

- ・8競技の地域展開への進捗状況としては、競技において差違は見られるが進んでいる。
- ・今後、さらに地域展開を進めるに当たって、必要と思われる事柄を机上の資料に掲載しているのでそれらを基にご意見を伺いたいと思う。

(進行:事務局)

- ・地域移行(展開)を進める上で、取り組んでいかなければいけないことを協議する。

(会長)

- ・地域移行(展開)が進んできているが、指導者のライセンス資格の取得方法については教育委員会では把握しているのか。また、具体的な支援方針について各団体に明確に示しているのか。

(事務局)

- ・令和8年度の中体連の参加要項を確認する。昨年度の内容を見ると競技によって出場資格などが異なる。正確に読み取るために少し時間をいただき、その後、各競技団体と情報を共有していきたい。
- ・中体連でも地域クラブの出場については緩和しているところもあればそうでないところもあるので、中体連事務局とも情報交換をしながら進めていきたい。

(会長)

- ・ライセンス取得について、必要とするべき指導者が取得できる環境をていねいに説明して、取得できる環境を作らなければいけないと思う。
- ・ライセンスを取得したいのに受講できないということの無いようにする必要がある。

(事務局)

- ・各競技団体とは年度で区切って委託契約している。
- ・地域クラブで出場する際は、各クラブでライセンス取得のための会場、期日、費用などを調べてもらい、それを基に受講できる環境作りをしていく。(実績として、今年度は卓球のライセンス取得に対して補助している)

(進行:事務局)

- ・スポーツ少年団ではどのようにして、ライセンスの取得や通知を行っているのか。

(委員)

- ・スポーツ少年団では資格所有者が2名以上いなければいけない。
- ・スポーツ少年団の運営のために、その競技を専門的に経験していない保護者の方々などもライセンスを取得している状況である。

(委員)

- ・スポーツ少年団は、スポーツ少年団事務局にチーム登録する時、さらに大会等に参加するた

めの名簿にライセンスを取得した指導者が掲載されていないと出場できないことになっている。したがって、これまで、取り損ねたことはなかったと記憶している。

(委員)

・ライセンス取得の際の費用は個人で負担するのか。

(委員)

・個人での負担もあるし、単位スポーツ少年団として負担しているところもある。

(委員)

・スポーツ少年団として負担する場合は、スポーツ少年団内の会費からの支出となるのか。

(委員)

・そうなのではないかと思う。

(進行:事務局)

・指導者の確保について話してきたが他の部分での話題はないか。

(委員)

・現状、よい形で進んでいる印象だが、そのあとの見通しとしてどうなっているのか知りたい。地域団は別だが、学校団ではスポーツ少年団を中学校で継続しているところはない(野球・バスケットは受け皿を検討していく必要がある)。

・先日、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の合同の地域スポーツ展開促進のためのフォーラムがあった。これまでスポーツはサービスとして行政が事業を提供していた。しかし、これからは地域でスポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブなどが、自分たちで運営していくことが重要になると思う。

・総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団が子どもたちの受け皿になることについてしっかりと確認した。

・11月のスポーツ少年団本部長会議の中で受け皿について議論した。湯沢市の総合型地域スポーツクラブは地域のスポーツを進めていこうという取組が非常に進んでいる。平成12年にスポーツ振興基本計画が出されたときに総合型地域スポーツクラブを市町村に1つ作ろうとしてできた。今後はこれを活用していくことも1つの手段だと思う。

(進行:事務局)

・受け皿の整備について、今あるものを活用するという意見があったが他にご意見はあるか。

(委員)

・財政について、地域展開となって保護者負担の割合が変化していくと思うが、スポーツ少年団ではどのように負担しているのか。保護者からの不満はないのか。

(委員)

・お金に係る問題はほとんど聞こえてこない。保護者の方々は、スポーツはお金がかかるものだと思っている。けれども、指導者確保には苦労している様子が見られる。

・したがって、お金や送迎について問題はなかったように思う。

(委員)

・保護者はある程度お金の負担は覚悟しているが、指導者確保で難儀している。

(委員)

・スポーツ少年団活動として県大会に出場する際は、市から補助をいただいているので助かっている。

(進行:事務局)

・TTC YUZAWA(卓球)の財政面はどうなっているか。

(委員)

・毎回4名分の謝金をいただいている。4名以上の指導者分の謝礼については頭割りをしないで、1時間あたり1,600円を確実に守っていきたいと考えている。

・けれども、大会等の引率をする場合については、市からの補助だけでは賄うことはできない。そこで、各家庭から1,000円を集金し、消耗品と指導料に充てている。

・ライセンス取得にかかった受講料は53,000円。市からは交通費の支援があったが、TTCで負担する必要もあった。現在は、その部分を協賛金で賄っている。

(進行:事務局)

・予算確保について、他に意見はないか。

・また、指導者の確保で難儀しているとの話だったが、どんな課題、どんな解決策があるのか教えてほしい。

(委員)

・平日練習の指導者を確保するのがすごく大変。個人事業主の会長さんだったり、保護者会の中でその週の担当者を配置しながら練習を行ったりしている。

・保護者会総会で、次年度の体制について話題にしている。保護者が監督になる場合は多々ある。

(委員)

・野球やバスケは監督、コーチが年度ごとに変わっている。これはやむを得ないことかもしれない。

・それ以外のスポーツ少年団は固定した指導者になっているところもある。

(事務局)

・令和5年、本事業の枠組みなどを作り始めた当初、地域移行(展開)の課題は指導者の確保ということであった。秋田県として指導者人材バンクの話があるが、秋田市の人が湯沢市に来ることは交通費等を考えると現実的ではない。地域の子どもは地域で育てることを広めていきたいと考え、地域移行(展開)を進めているところである。

(委員)

・総合型地域スポーツクラブに同じ競技種目の指導者がいれば、その方々との交流を交えながら指導をお願いする方法も話題となっている。そのための受け皿としての総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団という捉えもあるので連携を深めていくことが必要だと思う。

(会長)

・行政では時給で謝金を払っているが、これまでは地域の協力者に報酬は払っていたのか。

(委員)

・報酬を払っていたという記憶はない。

(事務局)

・国としては、継続性を重視するには、対価を払うことが大切であるという考えを出している。

(会長)

・そのような方針を固めてほしい。

(委員)

・部活動指導員の他に外部指導者の方が結構いるが、その方々に対する報酬などはないのが現状。年度末の3年生を送る会で慰労している。今後もなんとか引き留めるようにしていきたいがお金の出所がない。

(進行:事務局)

・外部指導者はボランティアだが、今後、地域を支える存在になり得ると思う。

・残りの時間がなくなってきているが他に話題にしたいことや深掘りしたいことはないか。

(委員)

・指導者の確保はとても難しいという印象をもっている。子育てが終わっている人にとっては地域移行(展開)への動きは関係のないことと思うが、その方々に情報提供していくと、指導者確保につながるのではないかと思う。謝礼を支払うことも含めて宣伝していくと意外と指導者が出てくることも考えられる。

(委員)

・全国中学校体育連盟は、スキースキーの全国大会など、競技人口が少ないところをなくすといっている。とんでもない考えである。競技人口が少なければ少ないほど、その競技者を大切にしていかなければならないと思う。

・地域移行で動いているが、サッカーやスキーなどのスポーツを行うチャンスをどのような形で、地域移行に入れていくのか、今後検討していかなければならないと思う。

(委員)

・正直、学校としては、特設の部活動として活動しないといけない、水泳、スキーについては、県大会、東北大会、全国大会へ出場するための引率の先生方に大きく負担がかかっている。それを依頼する学校としても苦しい現状がある。

(進行:事務局)

・私は学校現場にいたとき、水泳、スキー大会の引率の先生も、学校も苦しいと感じていた。

・最後に一言ずつ今日のテーマ「今後地域クラブを進めるに当たって取り組まなければならないこと」についてお願いしたい。

(委員)

・受け皿としてスポーツ少年団もがんばっていききたい。

(委員)

- ・卓球で得られる成果と課題を他の競技にも波及させられるように共通理解の下で進めていきたい。

(委員)

- ・保護者の立場として、保護者も関わらなければならないことを周知してほしいし、こちらでも情報を取りに行きたいと考えている。

(委員)

- ・野球がなかなか地域展開に向かっていていない状況だが、中体連専門部(野球部)としては、必要性や考え方も一致しているので、受け皿の形をつくっていききたい。事務局にも支援してもらっている。今後さらに意見交換をしながら、受け皿の仕組みづくりに努力していきたい。

(会長)

- ・少子化が進んでいる現状で指導者もある程度種目を横断していかないといけない可能性も出てくるだろう。そういうときに、総合型地域スポーツクラブがあるが、総合型地域スポーツクラブといえば社会スポーツのような形になっている。子どもたちを主体とした総合型地域スポーツクラブみたいなものを活用しながら、指導者の種目横断も考えていくことが必要なのではないか。そして、指導者だけでなく、受け皿の環境整備も同時に進めていくことができたらいと思う。
- ・夏季競技、冬季競技の違いもあるし、オフシーズンなども競技によって異なるので、競技を横断的に考えることで、専門的な指導者も配置することにつながるのではないか。

(進行:事務局)

- ・貴重なご意見をありがとうございました。
- ・今後の地域展開の環境整備や枠組みづくりに生かしていきたいと思います。
- ・次回もよろしくお願いします。これで、運動部の分科会を終了します。